

# 知立市保育所整備計画

平成22年3月

知立市

# 目 次

保育施設整備計画策定にあたって	2
1. 計画の目的	3
2. 計画の見直し	3
3. 現 況	3
(1) 保育所の設置状況・各種保育メニューの実施状況	3
(2) 保育施設の状況	4
(3) 児童数の状況	4
4. 整備計画の基本方針	5
5. 施設の統廃合・民営化計画	6
(1) 統廃合について	6
(2) 民営化について	7
6. 各園の具体的な整備計画	8
(1) 知立保育園	8
(2) 来迎寺保育園	8
(3) 上重原保育園	8
(4) 知立南保育園	9
(5) 知立中央保育園	9
(6) 逢妻保育園	9
(7) 高根保育園	10
(8) 新林保育園	10
(9) 八橋保育園	10
(10) 宝保育園	11
(11) 上重原西保育園	11
(12) 共通する整備計画	12
7. 民間保育所の整備について	12
8. 基金計画について	12
9. 年次計画について	13

## 保育施設整備計画策定にあたって

地域社会における様々な活動には、子どもたちの存在が欠かせません。子どもの笑顔は、何にも代えがたい宝物であり、地域社会における様々な活動のエネルギー源でもあります。

子どもたちの笑顔が、いつまでも絶えることのないように、家庭はもとより、社会全体で、しっかりと支えていくことが重要なことであり、行政としては、子育てに関する支援を、最大限に促進していかなければならないと考えているところであります。

昨今、行政に対する市民の皆様方の期待は、子育て支援のみならず、様々な課題に対し大きくなってきており、一方で、経済成長の鈍化などで、当市の財政事情は、非常に厳しい状況にあります。

そうした中、当市において、子育て支援、とりわけ、その中でも、中核的な役割を果たす保育施設につきましては、より良い環境にすべく、計画的に整備していくこと、併せて、昨今の社会経済情勢を踏まえながら、多様化する保育ニーズに対し、持続性を持って、的確に、応えていくための環境づくりを図っていくことが肝要であると考えております。そうした視点などを踏まえながら、計画書を策定させていただいたところであります。

保育しやすい環境、保育されやすい環境を、行政として、着実に整備・促進していくことで、いつまでも、子どもたちの素晴らしい笑顔が絶えることのない知立市が完遂されていくものと確信をしています。

知立市長 林 郁夫

## 1. 計画の目的

この計画は、当市の今後における保育所運営を効率的にかつ充実したものとするために、保育所施設の整備を計画的に実施していく為に策定するものです。

保育所は保育に欠ける児童を保育するための児童福祉施設ですが、近年の核家族化の進行、母親就労世帯の増加、延長保育、障害児保育、一時保育、病児・病後児保育等、保育に関するメニューの多様化及び量的な増加が進み、保育所の役割はますます増大しています。

次世代育成支援対策推進法では、次代の社会を担う子どもを育成し、又は育成しようとする家庭に対する支援その他の次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される環境の整備を推進することとしています。保育所は保育に欠ける児童の保育に限らず、虐待等に象徴される子育て機能の低下に対応する子育て支援の中心施設としての機能も求められるようになってきました。

一方、現状の保育所施設は、平成18年度に建て替えた来迎寺保育園を除き、建築後30～40年を経過する建物で建て替え、またはリニューアルが必要な老朽施設となっています。

平成20年度には乳児の入所希望の増加に対応できず待機児童が発生しました。乳児の受け入れには、沐浴や調乳を衛生的に行うことができるような設備を備えた施設が必要となりますが、既存施設ではそうした点で限界となっていることが最大の原因です。早急に大規模な施設改修や建て替えを行う必要があります。

平成17年4月13日付の保育行政審議会の答申では「市の規模から見て保育園の数は多すぎる。ある程度の統廃合は必要である」とされたように、県下でも保育所数の多い市となっています。その中には定員が60～70人であり、乳児保育も実施できない、近年の保育ニーズに応えられない小規模園が2施設あります。これらの施設の廃園も視野にいれながら、存続施設の拡充を行うことが必要となっています。

厳しい財政状況の中、施設規模を拡大し運営効率を上げながら新しい保育ニーズに対応していくことは、市に課せられた責務であり、その為の整備計画を示すことを目的として知立市保育所整備計画を策定します。

## 2. 計画の見直し

知立市の現状での保育所への入所児童数は増加し続けており、当分の間はこの傾向は続くものと考えられ、それに対応できるよう計画を行う必要があります。一方、就学前児童数は減少傾向にあり、保育所利用についても転換点が訪れるときがくるものと考えられます。また、保護者の意識や社会・経済状況の変化など保育ニーズは変化するものです。時代の情勢に臨機に対応できるように定期的に本計画書は見直しを行うものとします。

### 3. 現況

---

#### (1) 保育所の設置状況・各種保育メニューの実施状況

市内の保育所は、公立園11園、私立園3園の計14園で、定員の総数は平成21年4月現在で1,850人、最も定員の多いのは知立なかよし保育園の220人、最も定員の少ないのは逢妻保育園の60人、次いで知立中央保育園の70人です。

乳児保育については、公立9園と私立3園の計12園で実施しています。乳児保育のニーズは高く、途中入所での受入が困難な状況です。

長時間保育については、公立9園と私立3園の計12園で実施しています。うち午後6時以降も保育する延長保育は6園で実施しており、希望する保護者も多くなっています。

障害児保育については、公立全園、私立2園で実施しており私立1園を除いてほぼ全園で実施しています。一時保育については公立園4園で実施していて、ほぼ満員の利用状況です。また、休日保育については私立1園のみの実施ですが、利用人数からみて十分対応できています。病児・病後児保育については、私立1園で病後児保育を実施してきましたが、平成20年10月からは病児を加え医療機関での実施とし、更に充実を図りました。

#### (2) 保育施設の状況

知立市の公立保育所を県内の他市の公立保育所と比較すると、他市の保育所が在籍児童数平均108人であるのに対して、知立市は97人であり34市中11番目に少なくやや小規模園が多くなっています。(平成19年4月1日現在)小規模保育所の場合、どうしても運営効率が悪く、また、保護者のニーズに応える為の多様なメニューも実施が困難になっています。

施設整備の点から見ると、耐震改修については公立保育所の全施設及び私立保育所の2施設については改修不要又は改修済みであり、唯一未改修の私立1園については、平成22年度に建て替えの予定がされていて、安全面からの問題は全て対策されることとなります。しかし、平成18年度に建て替えた来迎寺保育園を除くと、昭和43年に建設され建築後41年を経過した知立南保育園を最高に、全園が約30年以上を経過していて、これら老朽化した施設の建て替え、リニューアル等を計画的に実施する必要があります。

施設の老朽化に加え便所や調理室、設備なども時代遅れなものとなっています。便所については洋式化などを進めていますが、調理室ではドライ化などの設備の近代化はほとんどできていません。また、駐車場が未整備の保育所もあり、実施計画に沿い順次整備を進めています。

### (3) 児童数の状況

市内の就学前人口は平成12年度以降4,700人～4,800人の間で推移してきましたが、平成20年度では1.5%減、平成21年度では0.7%減の4,683人と4,700人を割り込み、知立市でも少子化の傾向が徐々にですが現れてきました。ただし、地域的な差があり、山屋敷地区、上重原地区、弘法地区などはここ数年で就学前人口が増加している地域もあります。

保育所に入所する児童数をみると、実施児童では平成13年度の1,430人を頂点として、減少を続けてきましたが、平成16年度で下げ止まり、平成17年より増加に転じ、平成21年では1,299人となっています。

私的契約児については、年々増加していましたが、平成17年度からは、200人前後で横ばいとなり、21年度当初の人員は209人となっています。

入所児童数全体では、ここ数年間は増加していてこの傾向は当分続くと考えられます。

児童の年齢についてみると、低年齢児の入所が著しく増加しています。3歳以上児に比べ1クラスあたりの児童数の少ない低年齢児の入所は、保育所施設及び設備面から制約が大きいことから入所が困難となり易く今後の適切な対応が求められています。

#### 児童数の推移

	12.4.1	13.4.1	14.4.1	15.4.1	16.4.1	17.4.1	18.4.1	19.4.1	20.4.1	21.4.1
実施児	1,350	1,430	1,346	1,231	1,130	1,159	1,193	1,286	1,340	1,299
私的契約児	44	44	95	141	159	197	209	211	209	209
<b>合計</b>	<b>1,394</b>	<b>1,474</b>	<b>1,441</b>	<b>1,372</b>	<b>1,289</b>	<b>1,356</b>	<b>1,402</b>	<b>1,497</b>	<b>1,549</b>	<b>1,508</b>
3歳未満児(再掲)	216	266	269	217	228	246	267	281	321	323
就学前児童数	4,751	4,806	4,762	4,702	4,695	4,781	4,776	4,787	4,714	4,683

## 4. 整備計画の基本方針

現況を踏まえ、整備計画の基本方針を次のとおり定めることとします。

- ① 保育所施設の建て替え時期については、鉄骨造は建築後40年経過、鉄筋コンクリート造については概ね建築後40年程度で大規模リニューアルを行い、建築後65年経過で建て替えることとします。
- ② 知立中央保育園施設の用途変更を行い、子育て支援の拠点施設として整備します。
- ③ 定員総数は入所者及び今後の入所予定者数を考慮し定員の増加を行います。必要に応じて園舎の増築により待機児童を出さないようにしていきます。特に3歳未満児の受け入れ体制(受入可能人員)を現状より100人程度を増強し450人の受入が行えるように進めます。
- ④ 全保育所について建て替えまたは大規模リニューアルを行う際には、調理室のドライ化及び設備の近代化を進めます。
- ⑤ 全保育所について駐車場整備を実施します。

## 5. 施設の統廃合・民営化計画

### (1) 統廃合について

平成20年度までの5年間の入所状況をみると保育所入所児童数は右肩上がりに増加し、特に低年齢児の増加には保育室の増設を行って対応しているところですが、受け入れに苦慮している状況です。その理由として家庭環境の変化及び保護者の意識変化、この間の好景気により西三河地域における雇用情勢がよかったこと、さらには、昨年度から実施された第3子の保育料無料化制度などが考えられます。

低年齢児の入所は平成15年に217人であったものが平成21年には323人と約50%以上の増加となっています。これは当分の間継続するものと考えられ、さらに保育室の増設が必要となっています。こうした保育所ニーズに限られた財源の中での的確に応じていくためには、規模の小さな保育所の統廃合と、存続保育所の規模適正化と求められる保育メニューに対応するための施設整備を進める必要があります。先の保育行政審議会の答申においても「ある程度の統廃合が必要」とされました。

統廃合の対象となりうる規模が小さい保育所は、逢妻保育園60人、知立中央保育園70人、知立保育園100人、高根保育園100人、私立猿渡保育園90人の5園があります。知立中央保育園と逢妻保育園は、定員の小さいことに加え3歳未満児の入所ができない施設であるに対して、他の保育所では3歳未満児の入所が可能なため、重要な施設となっています。

知立市では、待機児童対策として、施設の増築を行い3歳未満児の入所に対応している保育所がある状況の中では、3歳未満児を受け入れることができる保育所の統廃合は非常に困難に思われます。これらの保育所については、少子化などにより市内での3歳未満児の入所児童数の減少確認できた段階で統廃合について検討していきます。

本計画では、入所者数が少なく3歳未満児の保育に影響のない知立中央保育園及び逢妻保育園の2保育所での統廃合を行うことを計画します。

#### ① 知立中央保育園

知立中央保育園を子育て支援の拠点施設(発達障害児の通所施設を含む)に用途を変更し、保育所としては廃園とします。知立市においては近隣市にあるような発達障害児の通所施設がなく、専門の施設における療育を希望する児童についても保育所での保育を行っている現状であり、こうした機能も併せ持った子育て支援施設の早急な建設が必要となっています。

なお、知立中央保育園で受け入れていた園児の受け入れについては、徳風保育園、知立なかよし保育園や建替を行う知立南保育園、猿渡保育園などで対応が可能と考えられます。

#### ② 逢妻保育園

逢妻保育園の入所児童数は21年4月現在、実施児が21人、私的契約児が27人、総園

児数が48人であり市内で最も園児が少ない状況です。今後、数年は児童数の推移をみるととし、園児数が横ばいあるいは減少していくようであれば、地域や保護者の理解を十分に得た上で廃園とすることとします。その場合には知立保育園を建て替え、規模の拡大を行い逢妻地区からの園児の受け皿とします。

## (2) 民営化について

### ①民間保育所の保育サービス

民間保育所は、かつては保育時間が長く、特別保育といわれる各種の保育サービスが充実しているといわれてきましたが、公立保育所で延長保育や特別保育の充実を図ってきたことから、現在では市内の公私立保育所では保育サービスの内容に差がなくなっています。

### ②民間保育所の運営費と財源

運営経費については、他市と比較して、知立市の民間保育所への財政支援は経費の大部分を占める人件費について、市から市保育士の給与格付けで人件費を補助するなど充実しており、民間であっても公立であってもほぼ同様の運営経費となっています。

一方、国県負担金は公立について平成16年度に一般財源化されたものの、私立については平成20年度決算での実施児童1人あたり約23,000円/月の国県負担金を受けています。公立保育所分については一般財源化されたことから今後において私立保育所でも一般財源化される可能性はあるものの現時点では大きなメリットとなります。

### ③民営化の考え方

先の保育行政審議会において「ある程度の民営化は必要」との答申をいただきました。民営化を行った他市の事例の中には「単に経費の削減を目的とした保育所民営化」だとして利用者からの反対を受ける事例もありました。

知立市が民営化を行う場合については、そうした経費の削減を目的とした民営化は行いません。民間保育所であることによって得られる国県負担金を利用し、知立市の保育を充実させることを目的とした民営化でなければなりません。

ひとつの方法としては、「社会福祉協議会への移管」です。社会福祉協議会への移管は市との連携がしっかり取れるため、公立保育所の良い点を継承できると考えられ、近隣市でも実績のあるやり方です。移管後の運営も市との協働がし易く、市民の信頼も厚く民営化を行うにしても理解が得やすい方法ではないでしょうか。

この計画では民営化を具体化しませんが、保育所を利用する児童や保護者本位の民営化を行うことができるように十分に研究を進めていきます。

以上を統廃合・民営化の考え方としますが、保育を取り巻く環境は年々変化しているため、その時々保育ニーズを的確に把握し市民の理解を得ながら進めることが重要であり、特に、廃園とする場合については在園児が転園を強いられることのないように配慮を行います。

## 6. 各園の具体的な整備計画

### (1) 知立保育園

#### 現状と課題

昭和27年に創立され、昭和46年に現在の場所に新築移転されました。定員150人でスタートし、最大で定員170人の大規模園でしたが、桜木幼稚園の拡張等により園児数が減少し、現在は定員100人の比較的小規模な園となっています。園児の主な通園域は西町、逢妻町が多く、これらの地域には当面の人口増加要因は見当たりません。

#### 整備計画

逢妻保育園が廃園となった場合に逢妻地区の児童にとっては最寄の保育所となります。残存耐用年数はまだかなりあるうえ、敷地も狭く改築は困難を伴う施設ですが、逢妻保育園の廃園を行う場合には、施設の建て替えを行い設備面においても魅力的な保育所にします。

### (2) 来迎寺保育園

#### 現状と課題

旧園舎の老朽化のため平成19年1月から現在の位置に新築移転し、定員を40人増加し120人として開園しましたが、平成20年からは140人としています。通園域は八橋町、牛田町、来迎寺町などですが、新築施設であり延長保育に対応しているなどのため入所者が大きく増加しました。

#### 整備計画

八橋保育園と合せた来迎寺・八橋地区の保育所の定員ではすでに飽和状態となっています。さらに地域には宅地開発の計画もあり、今後の宅地開発の動向や少子化の動向を見極める必要がありますが、入所状況により増築を検討します。

### (3) 上重原保育園

#### 現状と課題

昭和39年に建設され昭和54年に現在の場所に新築移転し、定員は160人です。

当保育所は、市街地の中心にあり、園舎も比較的新しく、園庭も市内の保育所の中で一番広く、環境的には市内で最も恵まれた保育所の一つです。通園域は、上重原町、弘法町、新地町、長篠町、新林町など広域に渡っています。

#### 整備計画

猿渡保育園の建て替えにより、本園の定員に余裕が生じれば、一時保育や特定保育などを実施し、子育て支援事業の充実を図ることができます。そのために必要な施設整備を行います。

### (4) 知立南保育園

#### 現状と課題

昭和43年に建設され、建築後41年経過していて市内では最も老朽化した保育所の一つ

であり、定員は130人、主な通園域は八ツ田町、谷田町、新林町、南陽などです。

エリアは宅地開発が進み新林保育園とともに満員となりやすい保育所となっています。

乳児室の面積が十分でなく入所希望に応えられない状況が続いていますが、敷地が狭いため乳児室の増築を行うこともできません。

園舎は、耐用年数を経過し老朽化が進んでいることから早急に建て替えが必要な状況です。

#### **整備計画**

統廃合計画に掲げたように当保育所の建て替えを早急に行います。これにより知立中央保育園の廃園に伴い減少する市内の保育所定員枠を補うのみでなく、ニーズの拡大に対応できるよう定員を増加させるとともに、特に3歳未満児の受け入れ強化や保育時間の延長を行います。また子育て支援センターを併設し、地域の子育て支援の多機能化を図ります。

### **(5) 知立中央保育園**

#### **現状と課題**

昭和44年に建設され、建築後40年を経過していて、知立南保育園に次いで古い保育所であり定員は70人、その内の保育に欠ける実施児童は例年30～40人程度です。逢妻保育園と同様に乳児保育・長時間保育等を実施していない保育所となっています。

主な通園域は山屋敷町、山町、東栄などです。

施設の老朽化が進み建て替えを行なう時期に来ていますが、保育所として運営効率の良い規模とするには敷地面積がやや狭い状況です。一方、立地としては市のほぼ中心にあるため、知立市の児童福祉施設として欠けている発達支援センターの建設候補地としては最適地であり、発達支援センターへの用途替えが考えられます。

#### **整備計画**

知立中央保育園を廃園し子育て支援の拠点施設とし、既存の子育て支援センターとの連携を図る中核施設として整備します。また、知立市は西三河八市の内、唯一発達障害児のための施設がないため、発達障害児の通所施設としての機能も持たせます。

なお、知立中央保育園で受け入れていた園児の受け入れについては、徳風保育園、知立なかよし保育園や新築する知立南保育園、猿渡保育園などで対応が可能と考えられます。

### **(6) 逢妻保育園**

#### **現状と課題**

昭和47年に建設され、建築後37年を経過していますが、平成16年に耐震工事を行なった際に一部リニューアル工事を実施している為、建物は比較的きれいです。定員は60人で入所児童数は約50人であり実施児童数は半数程度です。

通園域は逢妻町内からの児童がほとんどで他の町からの通園者はなく、今後園児が増加する要因も見当たりません。

#### **廃園の計画**

統廃合計画に掲げたように児童数の減少いかんによって逢妻保育園は廃園とします。その

場合は、園児の受け入れは主に知立保育園で行うこととなりますので、知立保育園を望んで通園したくなるような施設とするために知立保育園の建て替えを行います。

## （７）高根保育園

### 現状と課題

昭和４８年に建設され、建築後３６年を経過していますが、平成１５年に耐震工事を行なった際に一部リニューアル工事を実施している為、建物は比較的きれいです。

定員は１００人ですが、施設規模として１１０人程度の受け入れは可能です。

通園域は昭和、牛田町の南部、八ツ田町などですが、知立団地からの通園者が圧倒的に多くなっています。

### 整備計画

市内の保育所では、知立中央保育園、逢妻保育園がありますが、知立南保育園とこの高根保育園が鉄骨造の建物となっていて、建て替え対象のひとつの施設となります。平成１５年の耐震改修の際に一部リニューアル工事を行っているため、知立南保育園を優先して建て替えることとなりますが、建て替え順位は上位に計画していきます。

## （８）新林保育園

### 現状と課題

昭和４９年に建設され建築後３５年を経過した鉄筋２階建の施設です。平成６年に玄関通路を改造して保育室の増築を実施しました。平成１９年度には園舎の増築を行い３歳未満児の受け入れ枠を拡大しました。現在定員は１６０人です。

通園域は新林町、谷田町、西中町などです。

園舎については開園以来、外壁塗装が実施されていない為、鉄筋が錆びて外壁に亀裂が発生するなど老朽化が著しくなっていました。

### 整備計画

本年度にリニューアル工事を実施していますので、本園の整備は完了となります。なお、平成１９年度に増築した園舎はリース建物であり、５年のリース期間の終了後、撤去するか。再リースあるいは、新築をするかを児童数の推移を見ながら見極めていきます。

市南部地区の核となる保育所のひとつとして整備します。

## （９）八橋保育園

### 現状と課題

昭和５０年に建設されて、建築後３４年を経過している鉄筋平屋建の施設です。平成５年に外壁塗装工事を実施しているため比較的きれいな保育所です。

通園域は八橋町、牛田町、来迎寺町などですが、八橋町内からの通園者が圧倒的に多い状況です。乳児の入所希望児童数が増加しているため、平成２１年度からリース園舎を増築し、定員についても２０人増やし、１５０人となっています。

## 整備計画

急増している低年齢児の入所希望増加に応えるため、この八橋保育園にリースにより園舎の増築を行いましたので、建物に関する早急に行うべき大きな整備は必要ありませんが、駐車場が課題となっています。

### (10) 宝保育園

#### 現状と課題

昭和51年に建設されて、建築後33年を経過している鉄筋2階建の施設です。平成17年に耐震工事を実施した際に若干のリニューアルを実施しています。定員は120人で常にほぼ満員状態となっています。

夜7時までの延長保育を実施している為、低年齢児を中心に人気が高く、途中入所がほとんど不可能な状況です。通園域は宝町、上重原町、西町を中心に幅広い地域に及んでいます。

#### 整備計画

本園の駐車場は、保育所の北側の連続立体交差事業用地の一部を無償で借地してきましたが、事業での使用のため利用できなくなりました。それに備えて、平成20年から隣接の民地を借地し設置した駐車場と、平成21年度に園内を改修して増設したものと併せて10台程度の送迎用駐車場を確保しましたので、当面は急ぐべき整備計画はありません。

### (11) 上重原西保育園

#### 現状と課題

昭和53年に建設されて、建築後31年を経過しています。定員は150人ですが、施設的には200人以上収容できる規模があります。園児の通園域はほとんどが上重原町内です。

建築年次が比較的新しいうえ、平成13年に外観などのリニューアルを実施、平成19年度には駐車場整備を行い、比較的きれいな保育所となっていますが、給食設備などの近代化が課題となっています。

### (12) 共通する整備計画

#### 調理室の更新と駐車場整備

知立の保育所は平成18年度に建て替えを行った来迎寺保育園を除いて建築後30年以上を経過し、施設の老朽化のため順次の建て替えを行う必要がありますが、今後3～4年おきに一施設の建て替えを行うにしても最後の施設の建て替えは30～40年後となります。それまでの間はリニューアルを行ない施設の延命を図っていきますが、設備の老朽化対策も欠かせません。特に給食施設については、衛生面から現在のウェット方式からドライ方式への更新を行い、設備についても近代化を図ります。

また、自家用車での移動が当たり前となっている現在では、保育所においても駐車場は欠かせません。駐車場が不十分な施設については、効率的な敷地利用や近隣地の借地などを行って駐車場の整備を進めます。

## 7. 民間保育所の整備について

民間保育所の運営に関わる経費は国、県、市の負担金による委託費で賄われるものであり、また施設の維持管理についても運営経費の一部とされています。

一方、施設の設置は社会福祉法人が国からの交付金などにより自ら行うものであり、建て替えや大規模な改築などについても同様に行うべきものとされています。耐震改修事業についても施設の大規模改修の一環ですが、知立市では社会福祉法人が負担すべき費用の全額を負担しました。他市ではほとんど例のないことと考えられますが、入所児童の安全を守るため早期に改修を進めることができるようにするために行ったものです。児童の安全、福祉のために必要な事業については、今後も耐震改修の例により支援を行えるように努めます。

市内の民間保育所3園は、どの保育所についても公立保育所と同様に建築後40年近くを経過する施設となっています。今後、建て替えを行う場合には、公立保育所と同様に建て替えができるように必要な支援を行っていきます。

民間保育所3園の今後の整備に関する課題は下記のとおりです。

### (1) 知立なかよし保育園

昭和44年に建設された鉄筋コンクリート造の建物です。平成20年に調理室のドライ化、耐震補強工事も行い緊急の課題はありませんが、保護者の送迎用駐車場が少なく増設が課題となっています。

### (2) 徳風保育園

本館施設は昭和46年に建設された鉄筋コンクリート造の建物です。平成14年に調理室のドライ化、平成20年に耐震補強工事も行い緊急の課題はありません。平成14年度に設置した分園は木造住宅を改造したもので、耐震強度が低い上に耐震改修が難しく平成22年度に建て替えの計画しており、市としても支援を行います。

### (3) 猿渡保育園

昭和46年に建設された鉄筋コンクリート造の建物です。平成22年度に建て替え工事を行い、現在の約90人定員の比較的小規模な保育所を定員200人規模の施設とします。市の保育に大きく寄与する計画であり、市としても支援を行います。

## 8. 基金計画について

保育所整備計画に掲げる各事業を推進する財源とするために、基金の積み立てを行います。3年後の知立南保育園の建設以後、基金を積み立てることで、その後に計画する事業が安定的に推進できるようにします。

## 9. 年次計画について

下記のと通りの年次計画とします。

### 保育所施設整備年次計画表

園名	構造 建設年度	H21.4 現在の 経過 年数	第1期計画		第2期計画 (31～40年度)	第3期計画 (41～50年度)	第4期計画 (51～60年度)
			上期(21～25年度)	下期(26～30年度)			
南保育園	SC	41年	建替工事				リニューアル工事
	S43						
中央保育園	SC	40年		廃園			
	S44						
知立保育園	RC	38年			建替工事		
	S46						
逢妻保育園	SC	37年			廃園		
	S47						
高根保育園	SC	36年		建替工事			
	S48						
新林保育園	RC	35年	リニューアル工事			建替工事	
	S49						
八橋保育園	RC	34年	リニューアル工事			建替工事	
	S50						
宝保育園	RC	33年		リニューアル工事			建替工事
	S51						
上重原西保育園	RC	31年		リニューアル工事			建替工事
	S53						
上重原保育園	RC	30年		リニューアル工事			建替工事
	S54						
来迎寺保育園	RC	2年				リニューアル工事	
	H19						